

② 原因指標

原因指標は言うまでもなく、先に述べた判定指標（医業利益率）の結果の原因がどこにあるかを示唆する指標である。

原因指標としては、i) 判定指標にストレートに影響するものではないが、経営上の基盤に関わる指標と、ii) 判定指標に直結する指標とに分けて考える。

i) 経営基盤

経営基盤は収益基盤と収益構造の二つに分けて考えてみたい。

第一の収益基盤とは、具体的には経営基盤の根本を成す集患状況である。これを見る指標として、1床当り外来患者数と、病床利用率を挙げた。外来患者数の多さは病院の本来の姿からいえば既述のとおり、議論の余地のあるところだが、現状では経営上の現実の問題として、外来患者の多いことは、収益面だけでなく、将来の入院患者につながる点でも、また、地域における当該病院の評価、人気を測るバロメーターとして重要である。

経営基盤の第二は、収益構造に関する指標である。これは収益力の柔軟性をチェックする。固定費が少なく身軽な体質にあるか、逆に固定費が高く、少々のことでは収益改善が進まない体質にあるかを見るもので、固定費比率{(人件費+設備関係費+金利)/医業収益}を用いた。

ii) 判定指標に直結する指標

病院会計準則では、一般企業と違って費用が製造コストとか販売コストとかというように区分表示されておらず、ほとんど医業費用一本に集約されている。

費用が医業費用一本に集約されているだけに、医業費用として計上されている項目を出来るだけ多く、対医業収益比率として直接把握することによって原因解明の手がかりをつかむことが近道となろう。そこで新病院会計準則で、医業費用として示されている8項目のうち、データとして入手できる費用項目全て（材料費、給与費、委託費、設備関係費、経費）の対医業収益比率を原因指標として選定した。

なお、新病院会計準則で新たに設けられた設備関係費に含まれる減価償却費、および材料費のうち医薬品費、それに医業費用ではないが支払利息は、病院経営分析の上で重視すべき項目なので、独立させてその対医業収益比率に加えた。

ところで病院は実績から明らかなように、人件費が医業収益の50%前後を占める労働集約産業である。当然のことながら、人件費の動向、構造などの収益への影響度は大きいことになる。そこで人件費に関する指標をやや詳細に用意した。

最後に、投下資本を効率的に活用しているかをみるため、総資本回転率、固定資産回転率、1床当り固定資産額を挙げた。

2) 安全性の指標について

安全性指標とは倒産リスク、逆の側面から言えば事業の安定継続力を見る指標である。それは主として貸借対照表に示されている。そこでまず貸借対照表の基本的見方を整理し、もって後に示す安全性指標の収載理由とする。